

令和7年度（2025年度）宝塚市人権教育推進委員会（概要）

会議名	令和7年度（2025年度）第4回 宝塚市人権教育推進委員会
日時	令和8年（2026年）1月13日（月）13:00～15:00
場所	宝塚市立中央公民館 204 学習室
出席数	<input checked="" type="checkbox"/> 宮前委員 <input checked="" type="checkbox"/> 古芝委員 <input checked="" type="checkbox"/> 西口委員 <input checked="" type="checkbox"/> 伴委員 <input type="checkbox"/> 岩室委員 <input checked="" type="checkbox"/> 杉村委員 <input checked="" type="checkbox"/> 奥委員 <input checked="" type="checkbox"/> 井上委員 <input checked="" type="checkbox"/> 林委員 <input checked="" type="checkbox"/> 渡辺委員 <input checked="" type="checkbox"/> 小島委員 <input checked="" type="checkbox"/> 小玉委員 <input checked="" type="checkbox"/> 川島委員 <input checked="" type="checkbox"/> 久保委員 計13名 (■出席/□欠席)
傍聴者	0 名

- 1 開 会
- 2 令和6・7年度（2024・2025年度）人権教育推進委員会の協議結果について
- 3 その他

事務局： それではただ今より第4回宝塚市人権教育推進委員会を開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

早速審議に移ります。はじめに本日の会議の成立についてですが、定数15名に対し、本日の出席者数は13名ですので過半数を超えています。宝塚市人権教育推進委員会規則第5条第2項の規定により会議が成立していることをご報告申し上げます。それでは、以後の進行につきまして西口委員長にお願いいたします。

委員長： では事務局にお尋ねします。この推進委員会は原則公開ということになっていますが、本日傍聴者はいらっしゃいますか。

事務局： いらっしゃいません。

委員長： それでは議事に入らせていただきます。本日は2年間かけて協議してきた結果をまとめていこうと考えています。事務局より令和6・7年度本会での協議結果を案としてお手元に配布しています。これをたたき台としてまとめていきます。一気に進めるのは難しいので、大きく3分割してそれぞれ確認をしていきます。では、まず1枚目の表面で誤字脱字、言葉遣い、言葉の選択あるいは文末表現、大きく内容等含めて目を通してください。何か修正等があれば後でご意見を頂きます。少し時間を取りますのでお読みください。

委員： この文書はどこかに公表されますか？ どのような位置づけなのでしょう。

事務局： 最初の会で申し上げたように、本会が過去行ってきたような諮問答申というような形で行うものではなく、市教育委員会からは本会の中の協議の方向性について（今日の資料の協議内容1の部分）の協議をお願いしました。この紙面で協議内容を公表する予定はありません。協議内容は議事録としてHPで公開されているので、最終的にこの紙面の公表は計画していません。

委員： 最後の裏に出てくる一文「市教育委員会には……願います。」とあるので、推進委員会として答申ではないものの「こういう協議結果が出ましたので今後お願いします」といったものでしょうか？

事務局：本会で市教育委員会に「こうしたらどうか」という形でご意見を頂いたという視点で書いているので、そういう表現をこの中に入れていただくのは有難いと思います。

委員：市教育委員会に対してというような形で理解してよろしいでしょうか？

事務局：そうですね。市教育委員会や市教育委員会が委託している宝同協等のそういった方面と考えていただいてもかまいません。

委員：分かりました。

委員長：表面について何かお気づきの点があれば、意見をお出しください。

委員：最初にアンケートの結果について述べられていて、この後人権同和参観に注目した記載があります。おそらく私たちとしては「人権同和参観は大切なものだ。だから注目している」ということなのですが、「なぜ人権同和参観が大切なのか」という記載はないので、そこについてまず触れておいた方がよいと思います。「だからこそ、ここにどうすればみんなが来てくれるのか」ということを一生懸命考えた」というような話になっていくと思います。「この人権同和参観は保護者も子どもと一緒に学ぶ場だからこそ大切だ」という趣旨だと思いますが、このニュアンスが入ると素晴らしいと思います。

委員：一つ目は初めの現状のところアンケートの回答数が1806件とありますが、総家庭数の2万はなくてもよいのでしょうか？もう一つは下の表の「人権同和参観後の子どもの居場所の確保」とありますが、これは「懇談会をしている時」という意味だと思いますが「参観後の居場所」というのは分かりにくいと思いました。「懇談会時の」とかいう言葉があった方がよいように思いました。

委員：今の件について、回答率を出すだけ、回答率が何パーセントですと書くのがよいと思います。それから、なぜこれをしているのかということの説明するためにも、その人権同和参観についてなぜその意見が出たのかということ、現状を把握する必要があるのはなぜなのかということ、意義が必要です。もう一つ、「実態把握の一つとして」と書くとそれ以外にもあるのかという風に思うので「ために」でよいのではないかと思います。

委員長：ありがとうございます。些細なことでもよいので、他に何かありませんでしょうか？

委員：表の上の文章（下から4行目）「同じであるにも関わらず」の「関わらず」は公用文では平仮名表記がよいと思います。もう一つは表の下の文章（下から6行目）「必要性が」は「必要性を」にしてください。表の上（下から3行目）「減ることについて」の「ついて」は、すぐ下の行にも「ついて」を使っているので削除した方がよいと思います。

委員長：ありがとうございます。

委員：上から2行目の「宝塚市立保育所幼稚園小学校中学校」とありますが「特別支援学校」は対象ではなかったのでしょうか？

事務局：そうですね。加筆します。

委員：もう一つは各校種の間には中点（・）があると読みやすいと思います。あとは表の右（1段目）「土曜日」と「ある日」とその下（3段目）「土曜日」の「日」の字の大きさが違っていると思います。その後ろの「3時間目に参観をおこない…」も字の大きさが違って見えます。

事務局：そこは1行に収めるためにその行だけ縮小しています。

委員：分かりました。では、表の1段目の「土曜日」の「日」も大きさが違うと思うので確認してください。

事務局：パソコン上ではフォントに違いはありません。

委員：分かりました。次に、表の下本文1行目「地域づくり保護者づくり」には中点（・）があると読みやすいと思います。

委員長：ありがとうございます。

委員：表の2段目「子どもと一緒に参加できる」「子どもの居場所の確保」というのは、何か違うことを指していますか？同じなのではないかと思えます。子どもを家に帰らせて子どもなしで参加するのではなくて、子どもと一緒に出られるという枠ではないでしょうか。また、「居場所の確保」とか「居場所の保障」という用語を使うと何か別の課題が出てきてしまいます。そもそも表の左は議論した内容です。そして右側が出てきた意見です。ということも考えると、「日程の工夫」とか「保護者への参加の動機付け」というのは分かりますが、「子どもと一緒に参加できる」とか「子どもの居場所の確保」とかは議論したいこととずれるように思えます。そのあたりが分かりやすくなった方がいいのではないかと思います。同じように、表の下4行目「子どもの居場所を保障する」というのは「子どもと一緒に参加できる」ということと同じだと思うので、そのあたりもどちらも「子どもと一緒に参加できる」としても良いのではないかと思います。また、「子どもからの働きかけ」というのも「働きかけをきっかけとする」というのも、これだけを読むと、以前皆さんと話し合ったときの「ちゃんと授業の中に組み込んでいく」というところが、これだけでは分からないのではないかと思いますので、表の中に「保護者の参加を呼び掛けるような工夫をしてみる」ということを、この表の中にでもよいのもう少し分かりやすく入れた方がいいのではないのでしょうか。また、下から4行目の「ハードルが下がる」は「行動を促す」といった表現がふさわしいかと思います。また、上から3行目の「上記のものとなります」は「上記になります」、一番下の「確認いたしました」は「確認しました」でよいと思います。

委員：今の「子どもと一緒に参加できる」というところは、「授業と一緒に」という意味だと思っていましたが、放課後のイベント等と混同しているのではないかと思います。だから子どもが参加している授業を見に行くのであれば「一緒に参加できる」というのは要らないと思います。「参観後の子どもの居場所」については、親たちが懇談をしている間の子どもの見守りをどうするかということが分かる言葉になればいいと思います。

委員：「人権同和参観の後の懇談に子どもも一緒にいる」というニュアンスですか？「子どもが懇談に一緒にいる」のかどうかは別として、子どもがどこかにいるということでしょうか？

委員：他のイベントに子どもと一緒に参加できるものがあると、参加率が上がるという話がここに混ざってきてしまっているような気がします。

事務局：これは最終的に前回協議いただいた内容を、ここで皆さんと完成させていただくものなので、「事務局が再考してください。」というような協議ではありません。推進委員の皆さんから「こうしましょう。」という形で文言化していただくのが今日の大きな目的です。引続きお願いします。

委員長：「この辺の文言をもっとこうしよう、こうした方がよい。」といったご意見を頂きたいと思いま

す。

委員： 人権懇談会そのものは親と先生だけが参加するという前提でよいと思うので、川島委員がおっしゃったように「人権同和懇談中の子どもの居場所の確保」であれば分かりやすいと思います。

委員： 「子どもと一緒に参加できる」というのは、懇談時の話で入れておいたらどうでしょうか。それが何をさしているのか、どういうつもりで書かれたかを教えてください。

事務局： 小島委員が第一小学校区の報告でお話されていたように、土曜日の参観時に市民集会と一緒に人権落語を行ったということでした。

委員： それは西山小学校です。落語は西山小学校です。

事務局： （第一小学校の）高学年の子どもたちが一緒に参加しているという形で、学習会形式にすると子どもと一緒に参加できます。同じような内容ですが、親が子どもを同伴できるようにするか、学校として学年単位でも参加させるかといったような微妙な違いを並列していますが、一緒にしても良いかと思います。その下の「参観後の子どもの居場所の確保」というのは、懇談会であろうと学習会であろうと「子どもと一緒に下校しなくてはならない状況なので参加できない」ということをなくすために、地域ボランティアの方があそぼう会をしているということをごここに入れている形なので、今そこを改めて整理していただくことはよいと思います。

委員： 小島委員がおっしゃったような市民集会は授業参観とは違うものですね。

委員： はい。

委員： 三つ目の「人権同和参観時・後の子どもの居場所の確保」でよいということでしょうか？

委員： 普通参観される対象は授業中の子どもですが、ここでさしている対象はもっと小さい子のことでしょうか？「参観している時の子どもの居場所」というのは弟や妹といった小さな子を見ることで、「参観が終わった後」というのは授業に参加していた子どもたちをどうするかということだと思います。兄弟のことは考えていませんでした。

委員： 参観と懇談についてはそこまで峻別して書いていないと思います。懇談は参観が終わった後の先生と保護者との話のことです。

委員： 子どもたちは参観後、学校で遊べるので喜んで遊んでいます。問題なのは「塾があるから早く帰らないといけない」という理由で子どもを連れて帰ることです。

委員長： まず、この表の文言は分かりにくいという意見が多数あるので、修正、確定していきたいと思います。まず、左の一番上の「日程の工夫」はこれで問題ないですね。2段目、3段目の「子どもと一緒に参加できる」と「人権・同和参観後の子どもの居場所の確保」がややこしくなっているようなので、上手くここをまとめましょう。

委員： 「子どもの参加・同伴」にして右の4段全部を一緒に入れてはどうでしょうか。子どもの参加、一緒に入れるということについて、右に挙げているような主な意見が出たということが分かると思います。

委員： 参観には来たのに懇談に出ない理由として「子どもを連れて帰らないといけない」ということがあるので、懇談会の時に子どもの居場所の確保というので、授業に関してはその2段目は要

らないように思います。

委員： 前回の話の中で校区人権の活動の話と混ざってしまっていたかもしれません。落語を聴いたとかいうのは、その授業参観の開催方法として「子どもと親と一緒に」というような意味もあったのかと思ったので、「参観後の懇談も子ども同伴で参加できる」という文言をそこに入れて、さらに「参観の工夫」、「参観開催方法」といったタイトルにしてはどうかと思います。「親子で共にできる」ことが分かるようにすればよいと思います。

委員： 「内容の」ということですね。

委員： はい、「参観の内容の工夫」です。

委員： 親子で一緒に楽しめる、学ぶ、理解する、例えば落語みたいなものですね。

事務局： 今お話しいただいているのは、三つのことが混ざっていると思います。一つ目は、先ほどの親子というところであったように、人権同和参観自体が参観授業を親子で受けるという取組が市内で行われています。二つ目に参観授業の後に懇談会をするか、それとも懇談会はクラスごとに行わず、校区人権等とタイアップして学習会を行うという形があります。したがって親子参観授業が1つ、それが終わった後の人権懇談が2つ、そして人権学習会の三つのことを今話していただいていると思います。そのうちの一つ目が親子で一緒に学ぶ、二つ目がこの人権参観の時には先ほどお話していただいたように子どもを見る人がいないから帰宅しないといけない保護者への手立て、三つ目が人権学習会をする形ですが、親だけの参加では子どもは帰らないといけないので親子で一緒にできるようにというお話をいただきました。そういった整理をしたうえで、再度ご協議いただきたいと思います。

委員： 例えば、参観のような形を実施せずに親子で一緒に参加できる行事を行っているところもあると聞いています。教育委員会に「こういった手法もある」というようにこちらから提言することになります。これまで行ってきた人権参観懇談は基本的なやり方がある、それでは参加者が少ないということで色々な工夫をされているということでしたが、いろいろなやり方があるよいのですが、それをここに書いてしまってよいのかということが気になります。一つの方法なのでやっていけばよいし、やらないよりずっとよいのですが、人権同和参観でやってきた大切なことを超えてしまって、授業をしないとといったことになるのは問題であると思います。上手く整理ができませんが、ただ単に仕事が忙しいとか、子どもと一緒に参加できる方がいいといった形についての工夫をあげるのは問題がないと思います。この推進委員会の趣旨もあるので、そのあたりはどうなのでしょう？

事務局： 改めて、人権同和参観授業は市内全小学校で「人権同和参観」の名称で実施しています。中学校は12校中2校で実施しており、来年度に向けて他の中学校でも「人権同和参観」の名前を出した実施を中学校長会の中で検討する方向で進めていこうとしています。「子どもと一緒に参加する」のはあくまでも懇談会か懇談会をせずに学習会を行うかというところでのことです。参観授業がなくなることはありません。

委員： 私は西山小学校で「子どもと一緒に参加できる」授業を見ました。親も入って一緒に話をしていました。子どもと一緒に学べて、親も一緒に授業に入り込めるようなものが聴けるといいと思っています。その後のことではなく、授業に対してのことを表すようにしたいです。

委員： 人権同和参観と懇談に絞った対策であれば「子ども同伴で参加できる」ではなく、「子どもと一緒に授業で学べる」という表現の方がよいかもしれません。この前、私も自分の子どもの人権参観で、あるお話の中で誰が一番活躍したのかを子ども同士で話し合おうという授業を見ま

した。後ろにいた保護者も引っ張って来て一緒に話し合ってもいいと言われていました。交流して対話しようということで一緒に混ぜてもらったら、お互いにそんな考え方もあったのかという新しい気付きがあると感じました。一番活躍した人を敢えて子どもが選んだ人とは違う人をあげてみて、そこでまた対話ができるということもあって楽しかったです。参観に行って話したくないという人は結構多いので、それは良し悪しですが、授業に参加できるのはあげてもいいと思います。

委員長： 何かよい表現はないでしょうか。

委員： 「PTA等の集まりがある日に設定」は「ある日に設定」でしょうか？

委員長： 「に」ですね。

委員： PTAがなくなりつつありますが。

委員長： 「等」が入っていますし、PTAがない学校はまだ少数です。

委員： 活動は減っています。以前は学年で色々集まりましたが今はありません。

委員： 役員会とか給食試食会とかくらいで、PTAが集まる日はほぼなくなっています。

委員： 「保護者が出てこられる日に」ということですね。ボランティア等といった意味ですね。

委員： 仕事はなるべく減らそうということになっていますよね

委員長： この一つ目、三つ目の文言をどうしたらよいでしょうか。

委員： 二つ目は内容の工夫で「子どもと一緒に授業を受ける」とか「子どもと一緒に学ぶ」といった感じででしょうか。

事務局： 川島委員がおっしゃったように 二つ目は「内容の工夫 親子で一緒に授業に参加できるようにする」、もう一つは中学校をイメージして「人権同和をテーマにした参観授業を行う」を入れていくことにします。

委員長： 今、お話があったところで、「内容の工夫」が二つ目に来ています。どうでしょうか？

委員： 「子どもと一緒に」というのは内容だったと今気が付きました。

委員： 「授業の内容」のことですね

委員長： それでよいと思います。

委員： 子どもが授業を受けているところに親が入っていくという意味で「子どもと一緒に」がよいと思います。

委員： いつものものか分かりませんが、質問項目を見ていたら「どんな方法や形式であれば参加したいですか？」というものがあって、「子どもと一緒に参加できる」という選択肢がありました。これは学校で作る人権啓発に関する工夫なので「方法・形式の工夫」がよいと思います。

委員長： 「方法・形式の工夫」 でどうでよいでしょうか。

(承認)

委員長： 三つ目の文言についてはどうでしょうか？

委員： 「懇談会時の子どもの居場所の工夫」 はどうでしょうか？

委員長： いかがでしょうか？

(承認)

委員長： よろしいですね。それでは最後の「保護者への参加の動機付け」はこれでいけるかと思いますがよろしいでしょうか？

(承認)

委員長： では、表の右側の文言について、いくつか修正箇所が出ています。「PTA 等の集まりがある日に設定」、「子どもと一緒に授業に参加できる」にするということによろしいですね。

(承認)

委員長： それでは次の「参観時の子どもの居場所の工夫」に関して右側の文章を読んでいて、伝わりにくいところがあるかと思います。「土曜日の3時間目に参観を行い、4時間目は授業がある」というのは4時間目に授業をすることによって裏で懇談ができるという意味ですが。

委員： これは市民集会の時の3時間目に授業をして、4時間目は5、6年の児童と保護者が一緒に落語を聴いた事例を載せています。これでは先生は懇談ができないです。

委員長： これでは伝わらないので、何かよい文言を考えてください。

委員： 担任の先生が授業をするというのがありますが、複数で授業をするといった時間割に頑張ってもらおうというのはどうでしょうか。

委員長： 小学校では難しいですね。

委員： 学校の規模にもよりますね。

委員： 合同体育といった形もあります。

委員： 専科の先生が授業している間に懇談するというやり方です。

事務局： 懇談会を行うことを避ける学校もあって、懇談会ではなく学習会をしている学校であれば親子と一緒に参加できるという方法もあるかと思います。

委員： 懇談会をしてほしいです。

事務局： 懇談会ではなくゲストティーチャーを招いての講演会、先ほどの人権落語もそうです。

- 委員： 懇談会は要らないということでしょうか。
- 委員長： 「懇談会時の子どもの居場所」は「地域ボランティアによる遊ぼう会等で預かりをする」となります。
- 事務局： 少数ですが学校によっては担任以外の先生が子どもたちを集めて宿題を一緒にしてフォローアップするといった取組をしています。
- 委員： 学校は懇談会をする方向で、そういう話をしたいとおられるのですね。懇談会は要らないというのであればいいですが、やはり学校が懇談会で親と話したいと考えて人権懇談会をやっているということを今日の資料で伝えてもらえて、子どもたちとの話等について話そうと思ったら、懇談会をどのように持つかについて考えることに力を入れないといいません。だからそれが上手くいかないから、たまに他の方法をとる学校があったとしても、私たちが「親にもっと一緒に話をしましょう」という方向に進めていかないといけないと思います。
- 委員長： そうですね。
「懇談会時の子どもの居場所の工夫」については「土曜日の3時間目に参観を行い、4時間目は授業がある」を削除して「地域ボランティアによる遊ぼう会等で預かりをする」だけを残すということでしょうか？
- 委員： 前のアンケートで参加しない理由が「子どもが帰宅してみる人がいない」、「仕事」に次いで「人権について意見を求められると、分からなくて困る」が結構多かったです。「工夫」のところに「個人的に無理やり意見を言わせない」というような文言が必要でしょうか？
- 委員： そういう人を変えていくのが学校の本来の役割で、そこで変わってってもらって皆さんのような宝塚市民に育ててもらいたいです。PTA 等も学びの場のはずなのでそういうことは要らないと思います。
- 委員長： ありがとうございます。では、最後の「保護者への参加の動機付け」については「子どもから招待状を渡す」と「子どもから一番見てほしいところ（来てほしい旨）を伝える」はどうでしょうか？「(来てほしい旨)」は要らないですか？ご意見はないでしょうか？
- 委員： 意見ではなく確認ですが、「(来てほしい)」を外すと、このフォントは他のところと同じになりますね。上の「子ども」より下の「子ども」の字が小さいようです。
- 事務局： はい、そうです。
- 委員長： こちらはこれでよろしいでしょうか？

(承認)
- 委員長： ありがとうございます。ではこれで表の中が確定しました。これ以外の文章でいくつか気になることが出ていていると思いますが、いかがでしょうか？
- 委員： 表の左の「子どもと一緒に」と右の「学年単位でいっしょ」は漢字か平仮名に統一した方がよいです。
- 委員： 「学年単位でいっしょに参加する」は削除しましたが、残っていますか？
- 事務局： 消えています。

委員： 表を見やすくするために、右側と左側にそれぞれタイトルをつけた方がよいと思います。裏側の表も同じくタイトルをつけましょう。また、文章では表の上に「以下の通りです」とあり、表の下にも「上記のものとなります」と同じことが二度出ているので、上でまとめて表のすぐ下の3行分、「環境づくり」についての部分を上にあげると良いと思います。

委員長： ありがとうございます。その他いかがでしょうか？

委員： 先ほどの下から4行目の「ハードルが下がる」はどうなりましたか？

事務局： 「行動を促す」に変えました。

委員長： 確認します。表の下「大前提として」からの3行分「上記のものとなります。」までを表のすぐ上「協議を行いました。」の後に入れます。

委員： 上で「参加者が増えるにはどうしたらよいかを協議しました」とあって、下では「参加しやすい環境づくりをおこなうことの必要性」とあって「大前提」が唐突に出てきていると思います。

委員： 委員のおっしゃった入れ替えでよいと思います。「大前提」がその後にきてもおかしくないです。

委員： 見出しを付けた方がいいです。文章の量はこれぐらいで抑えたいのでしょうか？

事務局： 絶対に抑えなければいけないというわけではありません。

委員： 初めの「協議内容」はなくしてもいいように思います。

事務局： あると分かりやすいかとは思っています。

委員： 小島委員がおっしゃったように、人権同和参観についてなぜ行うのかという文言を入れると、この文章の意味を説明できると思います。

事務局： 年度の最初の人権教育推進委員会協議内容についてというものを別途1枚用意できますのでそれが1枚、また、協議結果について別途1枚作るのであれば、この四角の部分は必要ないかと思えます。

委員： 一つ目は「学校における人権同和参観および懇談について」のようなテーマですね。

委員長： この段落には「人権同和参観・懇談について」といった標題があった方がよいのではないかと
いうご意見がありましたので、その方向でいってよろしいでしょうか？

(承認)

委員長： 伴委員がおっしゃった表の下3行を上を持っていくと、文章として繋がるのでこれでよろしい
でしょうか？

(承認)

委員長： ありがとうございます。その他、何か気になるところはありますか？

事務局： では修正した文言を読み上げます。四角の下からです。
「現状の実態把握のために、人権教育に関するアンケートを実施しました。対象は宝塚市立保育所・幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校に子どもを通わせている保護者です。回答数は1806件ありました。」

一旦、区切ります。

ここの総数について懸念が二点ありますので、ご意見を伺いたいと思います。1点目は保育所に関してです。各園所長の責任においてこのアンケートをどのように周知するかは任せておりましたので、各家庭に1枚配布したところがあるという報告は受けておりません。保育室の前に置かれていたり、掲示板に貼られていたりということで、必ず回答するという前提に立っていなかったのも、「総数」と表現するのは難しいと考えています。もう1点は仮に2万世帯だったとして、回答率は9.03%なので、この9.03%という数がアンケートを価値づける上でどのように受け止められるかということも再度ご確認いただき、この数字を表現できたらよいと思います。一旦、委員長にお返しします。

委員長： 回答率が9.03%であるということに記載するかどうかについていかがでしょうか？

委員： その低いということに対して人権同和参観がどう成されていくかということの象徴でもあるので、それもきちんと引き受けていかないといけません。

事務局： 母数の2万という数がどこまで正確かというのは明確ではありません。

委員： 母数は載せなくてよいと思います。回答率でよいです。

事務局： パーセンテージを記載すると母数を入れる必要がありますが、「約2万」というようになります。

委員長： 「約9%」というように「約」を入れてもらったらどうでしょう。

事務局： 「回答率は約9%でした。」となります。続けます。「アンケート結果からは、通常授業の参観と比較して、人権・同和参観への参加率は22.3ポイントも減少することがわかりました。理由の最上位は、仕事などが忙しいと回答している人で、58%いました。仕事などが忙しいのは、通常の授業参観も同じであるはずにもかかわらず、20ポイント以上も参加率が減ることに着目し、どうすれば人権・同和参観やその後の懇談会等への参加者が増えるかということについて協議をおこないました。」

「大前提として、『人権を自分事として捉える地域づくり・保護者づくりをしないと根本的な解決には繋がらない』という考えを共有しました。それを受けて、まず、『参加しやすい環境づくり』をおこなうことの必要性を話し合った結果が下記のものとなります。」

その下の表中の見出しのような文言として、右側には「取組」を入れることになりましたが、左側はどうしましょうか？

委員長： 「協議内容」はどうですか？

事務局： 右側が「取組」で左側が「協議内容」でよろしいでしょうか。その下の一つ目が「日程の工夫」、右側は「・土曜日の開催 ・PTA等の集まりがある日に設定」。二つ目左側は「方法・形式の工夫」、右側が「子どもと一緒に授業に参加できる」。三つ目左が「懇談会時の子どもの居場所の工夫」、右側が「地域ボランティアによる遊ぼう会等で預かりをする」。四つ目左が「保護者への参加の動機付け」、右側が「・子どもから招待状を出す ・子どもが一番見てほしいところを伝える」。最後に文章が続きます。「保護者自身の参加しやすさだけでなく、子どもの居場所を保障することや子どもからの働きかけをきっかけとすることで、参加への行動を促すと考えます。そうした中で、保護者が人権を学ぶ必要性について実感する機会が増えることを期待しま

す。また、上記の環境づくりのためには、学校や学級からの働きかけはもちろんのこと、地域の協力も不可欠であることを確認しました。」という形になっております。あとは人権同和参観の大切さという趣旨の文言についてご協議いただきたいと思います。

委員： 先ほどの最後の文章の下から5行目「子どもの居場所を保障する」の「保障する」は先ほど修正されていたと思います。

委員長： そうですね。ありがとうございます。

委員： 宝塚市の人権同和参観を銘打ったものはありますか？あるならそれを載せた方がよいと思います。人権同和参観をやろうと思った時代背景、歴史があります。今すぐく歴史を大切にしない風潮がどこでもあって、特に政治とか行政ではその歴史の上にあるということを忘れてはいけません。4、5行になってもよいので書き加えて、宝塚市の人権教育に関わる人にもう一度きちんと知ってほしい歴史であると思います。

委員長： それについて今ここで考えるのは難しいですね。

委員： 1970年代には学校の教科書に出るようになりました。地域によってはもっと早く始まったところもありました。

委員： 第一中学校では毎月の解放学級についてこれは何だろうと思っていました。3年生になって初めて同和の授業がありました。

委員： もちろん歴史も大事ですが、なぜ人権同和参観をここで言うのかというと、保護者の一番身近にある人権について学べる場所だからです。だから、なぜ人権同和参観が大事なのかということを入れてほしいと思います。

委員長： 裏面の2項目についての検討が残っていますので、それについては一度パンフレットの中にあるかどうか探してみて、また改めて協議する必要があります。今日はこのまま進めていきたいと思います。申し訳ありませんが、裏面をチェックしていきたいと思います。裏面の上半分に目を通してください。

委員長： では、何かありませんでしょうか？

委員： 1行目に「校区人権啓発部の活動」となっていますが、これで正しいのでしょうか？「小学校区権啓発推進委員会」ではなかったでしょうか？校区人権啓発部であれば宝同協の中の組織になるかと思います。それをさしているのですか？

事務局： そうですね。校区人権啓発部の中に入っているのが各小学校校区人権啓発推進委員会で一つになっているので、部をさすよりも動いている推進委員会を示しますね。修正します。

委員長： その他はいかがでしょうか？

委員： アンケートの内容を使って書いてあるのですが、アンケートには校区人権についての質問はありましたか？「それを使ってした」と言う方がいいのではないのでしょうか。

事務局： 協議の中ではそれぐらいしか意見は出ていませんでした。

委員： 認知度が低いのでそれを高めていくためにも保護者に対してということで、子どもに繋がった

のではなかったでしょうか？アンケートを使うべきではないかと思います。

委員長： 「続いてアンケートの中で校区人権啓発推進委員会の活動についての認知度を調査しましたが大変低かったので、そのことを踏まえて小学校区ごとにおこなわれている学習会、市民集会への参加者を増やす取組についても協議をおこないました。」という感じになります。いかがでしょうか？

委員： 先ほどの話によると表中1段目の文言が変わってきます。

委員長： 表の左側一番上は「協議内容」ではなく「子どもを参加させる工夫」、右側が「具体例」でいかがでしょうか？

委員： 左側を「活動の工夫」、右側を「具体例」として、左側に書かれている「子どもたちの出演・子どもたちの作品」等々を具体例として右側へ書いたらどうでしょうか？さらに横に括弧をつけて「子どもたちの出演（人権作文、人権標語の発表）」のようにする方法はいかがでしょう？

委員： 子どもを参加させるというところを特化しているので「子どもを参加させる工夫」でよいと思います。活動は他にもいろいろあるので。

委員長： 「活動の工夫」か「子どもを参加させる工夫」のどちらがよいでしょうか？

委員： 表の上の3行によると「参加者を増やすための工夫」を議論してきて、それが「子どもによる」ということとなります。そして右の子どもの活動が関与するということが分かる文言が上手く入ると理想的です。

委員： 表の下に「子どもが舞台に立って発表したり表彰されたりする場には、すすんで保護者や親族が参加することが期待されます」だから子どもの参加がいいよね、というところからの「子どもを参加させる工夫」に繋がっていくと思います。この下に書いてあるのが上に入って、先生がおっしゃったように上手くまとめたなら「子どもを参加させる工夫」の表に繋がっていくと思います。

委員： ハーとんじんけん作品賞には一般の部もありますよね。だから子どもだけでなく一般の市民の方も含めて表彰するのが参加者を増やす工夫だと思いますし、あまり子どもに特化しすぎると、子どもを出しにするのかといったイメージになるのもよくないと思います。表彰式とかであれば一般の方も念頭に置いた文にした方がいいと思っています。

委員： ハーとんじんけん作品賞の入賞者の表彰式は“人権を考える市民のつどい”でしていますね。

委員： そこでもしていますし、各小学校区でも独自に表彰しています。

委員： 各学校でもした方がいいですね。

委員： している学校はありますね。

委員長： 先ほど渡辺委員がおっしゃっていた下の文章を上によびかえることによって、表を子どもに特化できるのではないかとこの件についてはいかがでしょうか？

委員： 民生委員が毎年人権標語を出しています。大人も参加していますので、子どもだけに特化するものではないと思います。

委員： 一般市民も参加していることを考えると、左側は子どもだけに特化するのではなく「活動の工夫」と書く方がよいと思います。上から下まで子どものことになっているのもどうかと思っています。

委員： 「子どもが鍵になる」というところとどのように分けるかを考えないといけません。この文章からいきなり大人のことが出てくると広がってしまうと思います。

事務局： 前回の協議を基にというところではあります。

委員： 文章中に「子どもに特化していますが」と入れてもいいです。

委員： 「人権標語や作文には大人も参加できます」「大人の参加も望みたい」といった文言を入れると、いった文言を入れておいたらいいと思います。校区人権であれば地域の方が子どもの素直な意見を聴いたり、子どもの発表を聴いたりして人権を学んで「自分も」と思うところから、保護者だけでなく地域の大人もやっています、といったことを入れてほしいと思います。毎年、地域の方が子どもの素直な意見を聞いて「気づかされました」と感想を残してください。そういう気づきは大事ですね。

委員： 表中の「人権啓発グッズがもらえる」という表現はどうでしょうか？

委員長： 「人権啓発グッズの配布」でいきましょう。では標題を上につけるとしたらどうでしょうか？どんな文言にするか確定したいと思います。

委員： 人権同和参観だけですか？ 懇談については？

委員長： 「人権同和参観・懇談について」くらいでしょうか。

事務局： 「人権同和参観の参加について」

委員： 懇談もあります。

事務局： 「人権同和参観や懇談会の参加について」

委員： このアンケートは保護者に対してもっと参加してほしいと伝えることを意図したものだったので、先ほど私は子ども子どもと言ったのですが、この意見を一旦引いて裏面の表中も「子どもが参加する工夫」でよいと思います。

委員長： では、裏面の表の項目は「子どもの参加を促す工夫」と「具体例」とします。さらにここにどんな標題をつけましょうか？

委員： 「校区人権啓発推進委員会について」はどうでしょうか？

事務局： これでよろしいでしょうか？

委員： 表の下の2行目「参加することが期待されます」は「参加することが予想されます」に、また4行目の「人権啓発が広がることと思います」は「人権啓発が広がることを期待します」にする方がよいと思います。

委員長： いかがでしょうか？

(承認)

委員長： ありがとうございます。その他、いかがでしょうか？ 無いようなので、これをアンケート結果のところに入れてお願いしようと思います。では、最後の部分を読んでいただいてまた意見を頂こうと思います。よろしくお願いします。

委員長： いかがでしょうか？まずどんな標題を付けるとよいでしょうか？

委員： 質問ですが、表の下1行目の「現役の委員」とは何のことですか？

事務局： 地域人権教育活動推進員の方にこの推進委員会に入っているということで、このように記載しました。「現役の地域人権教育活動推進員の」となります。

委員： 「人材育成」とはその推進員に関してなのでしょうか？「任期が1年」とありますが。表の右側「出産祝い金」は民生委員のことで、「任期が1年である」というのは民生委員のことではありません。それぞれ違います。

委員： 少し混ざっていますね。

事務局： ここも前回の協議内容を叩き台として書いていますので、今日の協議の結果、削除であったり表現の変更であったりを検討なさって取り入れていただきたいと思います。

委員： 教育委員会が直接関わっているなら、「宝塚市地域人権教育活動推進員について」と明確にする方が、後の文章を考えやすいと思います。

委員： 私たちも自分で名前を言うときに大変です。委員と団体の名前が別なので、まちづくり協議会で名前を表記されるときにずっと違う名前で書かれています。

委員： 地域人権教育活動推進員は関わらないということですか？

事務局： そこに焦点化した議論をしていただいたと思いますし、それ以外は協議してはいけないというお願いはしていません。

委員： 宝塚市民でないという意味が分かりませんね。もう少し広くとらえた表現がよいですね。

委員： 「宝塚市の人権啓発を担う人材について」といった感じでしょうか。

委員： 地域で人権啓発を担うというのはいろいろな団体があるので、そこを文言化しないとなかなか進められないと思います。どういうところが地域において人権啓発を担う人材として活動しているのか。ここにおられる人たちの所属されている団体を意味しているのではないかと思うのですが。

委員長： ぼやかしすぎると分からないですね。地域で担っている人という、宝塚市人権教育推進委員、宝同協の組織の一つである校区人権啓発推進委員、PTAの同推部等があります。

委員： 最初に話していたように「地域人権教育活動推進員を増やすにはどうしたらよいでしょうか？」とした方が分かりやすいと思います。

委員長： 表中右側の「任期は1年である」は全部ではないですね。

委員： 地域人権教育活動推進員のことだと思います。

委員： 「任期は1年というように明示する」としたらどうでしょうか？あくまでも例示だと思います。

事務局： そうです。

委員： 左を「任期について」にして右を「任期を明示する」としたらどうでしょうか？

委員長： そうですね。

委員： 標題についてはどうになりましたか？

委員長： 標題は少し置いておこうと思います。

委員： 例えば、推進委員としてこういういろいろな話をして、ここもまとめていっていますが、まとめるだけではなく、この後実際にこれを基にして進めていってもらいたいという思いで私たちは話をしています。実際に進めていく上でまずは地域の小さなくくりで推進委員をまとめる方がよいのか、人権に関わっている市の全ての組織に関する人材育成という形でまとめていく方がよいのかを言ってもらおうと話を進めやすいと思います。

事務局： あくまでも最初をお願いしているのは、教育委員会としてどうしていけばよいかご意見を頂きたいということでしたので、教育委員会が直接関わるところにフィードバックしていきます。いわゆる人権平和男女共同参画課等といったところへは区切りをつけた方がよいと思います。

委員： それを考えると、最後は教育委員会の関わりのある「地域人権教育活動推進員の育成について」ということになるのでしょうか。

委員長： そこに絞ればそうなりますね。

委員： それは宝同協ではないのですね。

事務局： はい、宝同協ではありません。当初こちらでお願いしていたのは大きく分けて教育委員会として事務局を兼ねている“宝同協”と学校教育課として行っている“地域人権教育活動推進員”の二つです。宝同協にはその先に校区人権啓発推進員が入っており、それ以外にも社会教育部にも担当者が出席してこれまでにご意見を頂いてフィードバックできると考えています。ただ、民生委員児童委員協議会に直接的に何かをするというのは違うかと思います。

委員長： 今日はここまでとして、日程調整をおこないます。事務局お願いします。

事務局： 次回は2月27日（金）、13時から行います。会場は後日お知らせします。

委員長： これをもちまして、本日の会を終了いたします。ありがとうございました。